

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2020年3月31日(2019年度)

事業所名 はつかぜ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	昨年末に同場所で事務、倉庫機能、相談室などを別スペースに移動し、支援スペースを拡張した。	まだ広い車椅子用のトイレが無いなど改善の必要性を感じている。
	2	職員の配置数は適切である	8	0	1日の支援員の人数は基準より多く、行事や重症度に合わせて更に増員している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	必要な配慮はしているが、車いす用の広いトイレが無いなど改善しなければ行けない箇所がある。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	常に全スタッフと話し合いながら業務改善に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	今年度も保護者アンケートを実施しホームページに公開している。3月初旬の保護者会で結果を報告する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の予防のため自粛し延期となっている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	8	現在外部評価は受けていない。	必要性があれば検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	毎月のスタッフ会議の際に研修の機会を設けている。また、外部の研修や研究会へも積極的に参加している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	保護者との密な情報収集、様々な職種のスタッフと意見交換などを行い個々に合った計画作成を行っている。また重症心身障がい児中心の事業所であるため、独自のフェイスシートなどを用いてアセスメントしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3	重症心身障がい児に合った標準化されたアセスメントツールはなく、独自のものを使用している。	アセスメントツールは使用しやすいものが見つかれば検討する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	毎月のスタッフ会議で2カ月先のプログラムを立案している。	

適切な支援の提供

12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	様々な経験を積む必要性を感じているので常に新しいプログラムを開発している。ただ重症心身障がい児対象の事業者なので繰り返し提供して心の動きを見るプログラムも設けている。	
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	プログラム内容は支援時間の長さを考慮して会議で検討している。土曜日はコンサートやPT、ヘアカットなどイベントプログラムを提供している。	
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	個別の課題に対しては支援計画に上げて随時実践している。集団での活動は毎日のプログラムで実践している。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	毎日昼礼を行いその日の支援の打ち合わせや前日の申し送りを行っている。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	翌日の昼礼、業務日誌で振り返り、気付いた点を共有している。業務日誌や支援記録などの書類等で補っている。	送迎に出るスタッフも多く、終了時間が一定では無いので終了後の打ち合わせ時間を取るのには困難だと感じている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	記録はかなり細かく残しており、月1回のスタッフ会議での振り返りや個別支援計画の振り返りの際にも活用している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	全員6ヶ月ごとのモニタリング、支援計画の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8	0	ガイドラインの基本活動に上がっている全ての活動を実施している。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児童発達支援管理責任者が参加している。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	学校のホームページや学校送迎時に行事予定や下校時間等を確認したり、保護者に学校からの連絡プリントのコピーを提供してもらったり、連絡帳でお知らせ頂いたりしている。	
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	0	医療的ケアの実施に関しては必ず主治医に指示書の記載をお願いしている。また病院で実施するカンファレンスには積極的に参加している。	
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	0	現在はまだ引き継ぎが必要な利用がないが、あれば積極的に行いたい。	

関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	卒後の生活介護施設への引き継ぎは希望があれば積極的に行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	重症心身障がい児が主な対象者なので、保健所の研修に積極的に参加している。	事業に関係の深い研修があれば参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	7	現在は行っていない。保護者のニーズがない。保護者からの要望があれば検討するが、感染予防やケガ予防の観点から必要性を感じない。	今後も行わない予定である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	3	現在は参加していない。1/18箕面市協議会の方が見学に来所された。今後連携を図っていく予定である。	情報が入ってこないので参加しようがない。今後の連携に期待している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	送迎時に必ずその日の様子を保護者にお伝えしている。また連絡帳で体調、プログラムのときの反応など詳しくお伝えしている。モニタリングでは保護者とともに課題の確認をしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	0	体調面のアセスメントや対処の方法、装具や制度、遊び方など様々な情報をお伝えしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	6ヶ月に1回のモニタリング時は事業所や居宅で懇談し、様々な相談を受けている。また送迎時も相談を受けることがある。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	年に2回、3月9月に定期的に保護者会を開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	明らかな苦情を受けたことがない。今後あった場合は適切に対処していきたい。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	毎月1回ブログという形でホームページに1ヶ月の活動報告、次月の活動計画を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	写真の掲載や支援計画の取り扱いについて保護者と書面で確認している。	
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	支援の際は子どもの意思を感じ、寄り添う支援を心掛けている。モニタリングは懇談形式で時間を十分かけて保護者との意思疎通を図っている。		

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3	会場を借りてのコンサートなどは利用者さんのご家族、お友達、卒業生など地域の方にも参加してもらっている。	ホームページで行事予定等公開している。行事予定等を周知する為に、今月からホームページの更新情報を連絡帳でお知らせするようにした。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	0	マニュアルは策定している。感染症マニュアルは保護者会にて内容を説明した。今後他のマニュアルも順次保護者会で説明していきたい。災害に備え保護者と事業所間のライン交換を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	毎年火災避難訓練を消防署の協力を得て行っている。研修にて災害時マニュアルの検討や避難場所の確認など行っている。	地震、大雨などの災害に対しての避難訓練は行えていない。研修で確認しているが実際の訓練も今後は検討していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	毎年外部研修に参加し、その報告も兼ねて事業所内研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	身体拘束の同意書を交わし、支援計画にも記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	現在医師の指示が必要な食物アレルギーがある利用者はいない。	医師の指示が必要な食物アレルギーのある利用者がいれば、指示通りの対応をする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	ヒヤリハットは積極的に報告されており、毎月の会議で報告、対応策の検討、改善を図っている。	